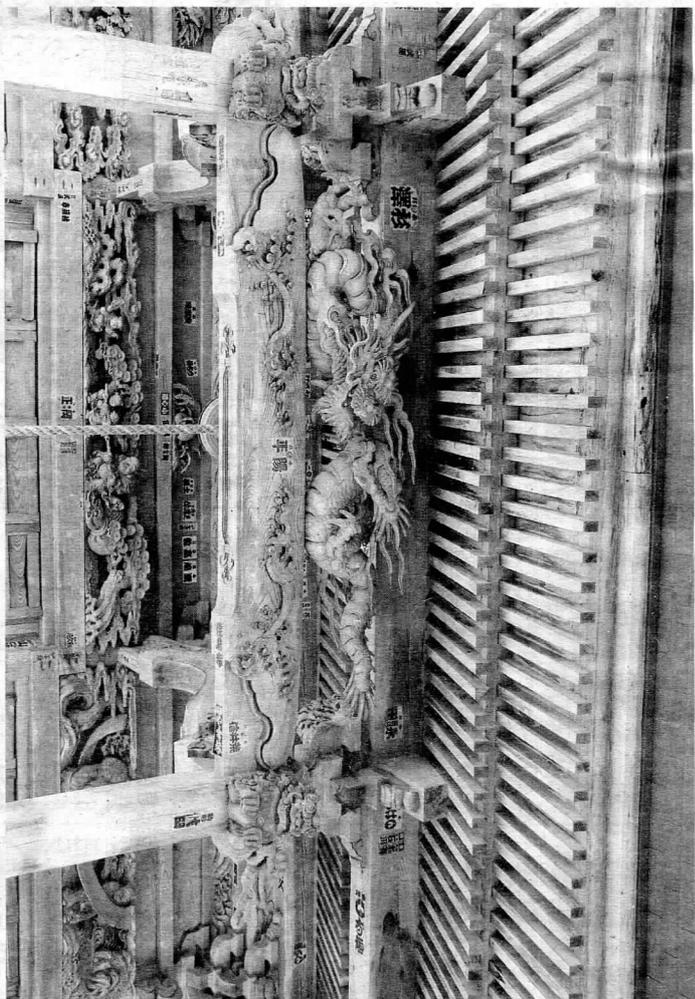


北杜市の津金山海岸寺



海岸寺観音堂の向拝部の虹梁

下教采石諏訪神社竣工の後、立川富昌が足を向けたのが津金山海岸寺。観音堂屋根妻部に付ける方神を富昌が背負い山路を登って行った。どの言い伝えが残る。それは下教采石諏訪神社の作事場で海岸寺に取り付ける彫物も制作されたことになり、立川の効率的な請負方法を垣間見ることができると言える。

立川「龍」には圧倒される。虹梁は立川の特長である隆々とした波瀾が広がる。お堂正面は布袋と童子の構引きを中心に向かって左側に賓と仙人、右に巻物を広げ眺める2人の仙人、巻物には何やら文字が刻まれていて読んでみたい。股は十支、正面は「栗穂に鶯」。栗穂に鶯と言えば立流のお家芸とまで言われる作品で栗穂に鶯が付いていると立川一門の作と誤解を招く図柄でもある。さて富昌が背負って来た方神はいまどこに…訪ねた時に探してみたい。

「ふわり」諏訪塾® 山裾の静寂に包まれた観音堂



観音堂までの参道には高遠石工、守屋貞治が10年余の年月を掛けて彫ったと伝えられる格調高い観音像、延命地藏尊の石仏が整然と並んでいて魅力的な山裾の寺院です。 随時掲載 詳しい場所などの問い合わせは 諏訪塾事務局 (電話) 070・8323・2107 へ。

- ・ 諏訪市観光案内所 (JR上諏訪駅内)
- ・ ねすらん割烹いすみ屋 (諏訪市諏訪)
- ・ 書店「言事堂」 (諏訪市末広)
- ・ すね大昔情報センター (諏訪市博物館内)
- ・ 諏訪書店 (通販のみ)
- ・ 57・0997 桧屋カフエ&ギャラリー (諏訪市中洲神宮寺) で販売中です。

今回の筆者

 浦井みち子さん
 立川流建築彫刻研究者でス
 ポーツイラストレーターと
 しても活動しています